



21世紀を「心の世紀」に

鳥取ガス株式会社

取締役社長

児嶋祥悟

激動の二十一世紀。「環境」とともに重視されるのが「心」のありようの問題です。衣食住に欠乏した敗戦後の日本人は勤勉の結果、半世紀の間に豊かな物質と知識を得ることができました。しかし、急激な経済成長と高学歴社会が行き着いた果てには、理想とは裏腹の精神の荒廃が待っていたのです。

非礼を顧みない傲慢な言動、他者への思いやりを欠く自己中心主義。しかもその割には「個」の存在感は稀薄で、自由を謳いながらも現代人は、閉塞感のなかで孤独地獄に陥っています。組織や学校をはじめ、家庭をも破壊する人間疎外は、こうした歪みの象徴と言えましょう。

続発する青少年の事件が、社会に訴えているのは何か。大人が自らの子ども時代を想起し、遊びと勉学のケジメ、自然と人間への尊厳など、最も基本的な規範を、ともに考えることが大切と思われれます。大人と子どもが、親と子が、やさしく人生を考える。二十一世紀をそんな「心の世紀」にしたいものです。